

試験検査部 - 閉鎖断面探傷時注意点

- ①閉鎖断面突合せ継手(柱)板厚40mm×板厚45mmの場合、探傷は45mm側を45° を使用し探傷
- ②日建設計65° 使用物件で、閉鎖断面突合せ継手(柱)板厚45mmの探傷は45° を併用する。
65° の1スキップで探傷範囲をまかなえるが、現状の見積もり時には45° 併用を見積もっている為、45° を併用する。
- ③閉鎖断面突合せ継手(柱)下柱板厚40mm×上柱板厚45mmの場合、45mm側の初層部分の判定は施工者に質疑を出し検査方法を決める。薄板部のみ判定の場合と厚板初層部まで探傷する場合とがある。
- ④エレクションピース近傍は障害物の中心に向けて斜め平行走査を行い、欠陥の存在の有無を確認する。エコー高さがL線を超えた場合、障害物の中心から端までは障害物の半分の幅の欠陥があるものとして欠陥長さを評価する。※スカラップ同様に検査。

